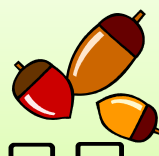




ことしば



【学校教育目標】

「挑戦し、未来を拓く『琴芝っ子』の育成」

10月号



琴芝小の教育活動と『SDG s』



暑さ寒さも彼岸までという言葉通り、このところ朝夕めっきり涼しくなり、少しずつ過ごしやすくなってきました。各学年の学習も、秋に相応しく体験的な活動を取り入れ、教科書で学んだことを実際の生活に生かす経験を積み重ねています。

9月には、1年生が子牛とふれあい、搾乳体験をしました。2年生はタブレットを使って音楽のリズムづくりをしました。3年生は教育実習生から手洗いの大切さ（衛生）について学び、実際にタブレットやセンサーを使って手洗いの実践をしました。4年生は「味覚教室」で食について考えました。5年生は国立山口徳地青少年自然の家に2泊3日で宿泊学習に行き、自然の中で、仲間づくりの活動（TAP）や野外炊事、オリエンテーリングなどを体験してきました。また、6年生は10月末の修学旅行に向けて、歴史や平和について学習したり、その時に使うナップザックを製作したりしています。これらの学習を通して、これからの社会を生きる力が、確実に蓄積されてきていると思っています。

さて、皆さんは『SDG s』という言葉を知っていますか。これは、『Sustainable Development Goal s』（持続可能な開発目標）の略語で、2030年までに、先進国と開発途上国がともに取り組むべき国際目標のことで、2015年9月に国連サミットで採択されました。これからの社会を生きていく上で、解決していかなければならない重要な課題です。宇部市も『SDG s 未来都市』に選定され、全学的に取り組んでいます。この目標の中には、「健康」「教育」「環境」「平和」に関するものも含まれています。先に紹介した本校の取組とも大きく関わっています。先日、教職員も『SDG s』について研修しました。早速、その情報を活用して、6年生が国語『未来がよりよくあるために』の授業で、近未来の生活と現代社会の大きな課題について映像を通して対比し、自分達の在り方を考える学習を進めていました。4年生も総合的な学習で『環境』について学んでいます。



これからは、学校教育においても、これらの目標を意識しながら学習を進めていくことが大切です。私たちは、琴芝小学校の教育活動を『SDG s』の視点から捉え直し、価値付けながら、子ども達に必要な生きる力を育てていきたいと思っています。



校長のつばやき

『還暦』に『学び直し』～予測困難な社会に向かって～



『SDGs』『Society5.0』『AI』『超スマート社会』『ICT』『IoT』・・・、最近では、あらゆるところでこれらの横文字が溢れ、雲の上を飛び交っています。還暦まで1年あまりの私にとっては、戸惑うことばかりです。しかしこれらは、これからの社会を生きていく上で、避けて通れないことのようにです。

『スマホ』という言葉を知らない人は、ほとんどいないでしょう。2010年頃から普及し始め、今ではスマホの世帯保有率は75%を超え、パソコンのそれを上回っています。私が生まれた頃は、まだ固定電話すら普及しておらず、隣の家に10円をもって電話を借りに行っていました。また、別の所では、有線放送電話で、交換手を介して電話をつないでもらっていました。その当時は、こんな社会が来るとは夢にも思っていませんでした。スマホの普及により、社会が大きく変わりました。このわずか10年の間に、です。最近では、自動運転の車の実用化に向けた実験も各地でなされています。これらの社会の変化について、子ども達だけが理解し、対応できればよいという時代ではありません。

これからさらに進む少子高齢化社会。そして、人生100年時代。還暦という言葉はそのうち廃れるかもしれませんが、還暦の節目を前に、生まれ変わったつもりで、まさに『ICT』を駆使して、それぞれの言葉について学び直し、予測困難な社会に向き合いたいものです。『超スマート社会』のよさを生かしつつ、伝統や文化、人と人とのつながりも大切にして、より豊かな人生を送るために・・・。